

悠久

第 33 号



河南省洛陽市新安県：申窪村希望小学校

本号の内容

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| ① 友好交流 | 吉備中央町町長重森計己 |
| ② 早島小学校と上海市威海路第三小学校との交流 | 早島小学校日中交流委員会委員長中村勇 |
| ③ STUDENT EXCHANGE in 大連 | 岡山県日中教育交流協議会会長岡田浩明 |

November
2010

友好交流



吉備中央町長

重 森 計 己

吉備中央町と中国淮安市楚州区との友好交流は、一九九三年の行政関係者相互の表敬訪問から始まり、中学生を中心とした友好交流へと伸展してきました。

この間、お互いに行政組織の変更、合併がありました。二〇〇五年友好交流継続を再確認し友好交流を継続しています。

特に、吉備中央町と楚州区の交流は、日中国交回復の中心人物である周恩来総理と岡崎嘉平太氏との交流が礎となっています。

人と人とのつながりを大切にするということ、お互いの郷土が生んだ偉大な先人の遺志を受け継ぎ、日中友好ひいては世界平和を目指す大きな夢を掲げた交流です。

中学生がお互いの町を訪問し、ホームステイによる滞在、歌や踊りなどを通じた学校での交流活動、史跡の見学などなど貴重な体験をします。出発した時の不安な表情が消え、充実した顔で帰国してきます。

同年代の若者と交流しながら、異文化を自分の目で見、肌で感じることは、将来を担う若い世代にとってすばらしい財産になると確信しています。

一方では、体育協会が中心となって楚州区での駅伝大会へ参加、女性団体連絡会会員の訪中、議会議員の訪中などが実施され、町民の間にも国際交流に対する関心が高まりつつあります。町としても吉備中央町国際化推進協会と連携しながら、町民と一体となって国際交流の輪を広げていきたいと考えています。

国際交流は、一朝一夕に成果が現れるものではないですね。長い年月の中で、いろいろな障害を克服しながらお互いを理解し、尊重し、信頼関係を築いていくことが重要と考えています。

今後も、お互いの立場を尊重しながら国際理解、国際交流が充実していくことを願っています。



早島小学校と

上海市威海路第三小学校との交流

早島小学校日中交流委員会

委員長 中村 勇

今年八月二十一日から二十三日に威海路第三小学校との交流のため訪中をしました。今夏が威海路第三小学校への五回目の訪中となりましたが、私自身は、二度目の訪中でした。前回訪中した平成十八年にも団長として長女とともに参加させて頂いており、今回も長男とともに参加させて頂きました。

早島小学校では、平成七年度から国際理解教育と国際交流を重視した学校経営を模索してまいりました。そうした中で、中国は日本の文化や政治などで極めて関係の深い国であること、両国は今後アジアのリーダーとしての協調と協力が重要であること、上海・岡山間に航空路が開設されていること、そして、い草や豊表の貿易で早島町との往来が盛んでもあることから当時の武校長先生が、平成七年上海を訪問し、中国との交流の意義を確認するとともに交流相手校を決められました。



上海友好協会歓迎会



受入家庭親子

そして、平成十三年の秋には威海路第三小学校の訪日団の方々と早島小学校の応接室で、当時の教育長、学校教育課長同席のもと、今後の交流に一層の発展と継続を願って、両校の校長の署名による「議定書」の締結が行われています。その際、一層文化や生活の相互理解の交流を進めていくことも確認されています。

この交流では、こちらの窓口としてアジアコミュニケーションズの方々と、また現地受入として上海市市民対外友好協会の日本処の方々に大変にお世話になっています。

この交流事業の主な内容は、訪問した児童が受入小学校児童の家庭へホームステイをしてそれぞれの家庭を肌で感じることや学校を訪問して両校の一層の交流を深めることです。

今回の交流では、訪中について打診しましたが、威海路第三小学校が耐震工事や内装工事のため交流が見送られそうになりました。しかし、一昨年はオリンピック、昨年は威海路第三小学校の校舎工事とインフルエンザにより訪中を断念してしましたので、今年こそぜひ訪中したという事で交渉を重ねた結果、例年のホームステイではなくホームビジットという形での交流ができることになりました。

今回は、飛行機の発着時間を考えて広島空港から出国しました。

上海到着後ホテルで昼食を取り、子どもたち六名は二人一組になって、ホテルのロビーで受入家庭の親子と顔合わせをしてから、午後八時半までの予定でホームビジットへ出かけました。子どもたちが出かけた



受入家庭親子

あと、大人は威海路第三小学校の教職員三名とホテル内の一室で一時間余りの交流会を行いました。双方の学校のこと、教員評価のこと、勤務状況などを歓談し、贈り物の交換をしました。交流会に参加された威海路第三小学校の三名の方は、これまでにこの交流事業で訪日された方々でした。

午後五時半から威海路第三小学校による歓迎会に出席しました。交流会の三名の方に威海路第三小学校前校長の黄さんが加わり、これまでの交流のことや学校生活のことなど楽しく歓談しました。この前校長の黄さんは、この交流事業を始めた時の校長先生で非常に気にかけて頂いており、一昨年、昨年と訪中でできなかったことで心配していたので、今回訪中できたことを非常に喜んでくだ



受入家庭親子

二日目は、朱家角、東方明珠タワー、上海市人民对外友好協会主催の歓迎会、上海雑技団鑑賞でした。朝ホテルを出発して、専用バスにて朱家角へ向かいました。上海市内から約一時間ほどです。朱家角は、水路の両側にお店などが並んでおり、また旧来の建築様式の建物や庭園があり、倉敷市の美観地区に似ていました。建物や庭園を散策したあ



朱家角

さっていました。歓迎会のあとは、

一階のロビーにてホームビジットから戻ってくる子どもたちを迎えました。受入家庭の親子に連れられて頂いたお土産を手に子どもたちは戻ってきました。そして、楽しそうにその日の出来事を話していました。どの子どもたちも威海路第三小学校児童家庭を訪問し、また市内デパート、観光地、外食に行くなど受入家庭親子との楽しい一時を過ごしました。

三日目は、上海水族館、上海博物館を見学して、帰国の途につきました。

と水路を往復する大人六人ほどが乗れる小船に乗りました。水路両側の道に並ぶ商店などを見ながらの乗船は風情がありました。夕方いったん宿泊ホテルに戻ってから上海市人民对外友好協会主催の歓迎会に訪中団全員で出席しました。日本処長の王加新さんに子どもたちのリコーダー演奏で、茉莉花、ふるさとの二曲をお聴き頂きました。「中国と日本の友好の架け橋になってください。」と子どもたちへのお言葉を頂きました。

三日目は、上海水族館、上海博物館を見学して、帰国の途につきました。

見学のあと、空港へと向かいました。龍陽路駅からリニアモーターカーに乗り、浦東空港へ到着しました。約八分程の乗車時間でしたが、四百三十一kmの最高速度に子どもたちは驚きつつも乗車を楽しんでいま



東方明珠タワー下

した。そして、浦東空港から広島空港へと帰国しました。

こうして、上海市人民对外友好協会、威海路第三小学校の皆さんのおかげをもつて無事交流することができました。

今回参加した子どもたちは、初めて中国上海を訪問しましたが、日本以外の国を自分の目で見て、また中国を目的の当たりし、さらにホームビジットをしたことで、そこに暮らす人々の家庭を肌で感じ、子ども同士触れ合うことができたのは、とてもすばらしい体験となったことと思います。来年は、威海路第三小学校の皆さんをお迎えする年です。

今後とのこの交流が続いていき、交流した両校の児童が、将来日本と中国との友好の架け橋になることを期待しています。



上海博物館

STUDENT EXCHANGE in 大連 2010

～派遣高校生の記録～



「STUDENT EXCHANGE」は、岡山県日中教育交流協議会が財団法人福武教育文化振興財団の委託を受け、平成十七年度から実施している日中青年交流事業である。

上海市新中高級中学との四回の交流を実施し、さらに発展を期すため、昨年度から場所を変え、岡山との直行便が開通した大連市の高校と交流を行うこととした。

大連との折衝は、大連外国語学院日本語学院副院長・宮偉氏の仲立ちで始め、平成二十年五月に訪中して大連市外事弁公室、大連市教育局と協議し、交流候補校として大連市第一中学を紹介された。大連第一中は遼寧省の重点中学で国際交流に特色を持つ大連市のトップ校である。石傑校長との間で話し合いは順調に進み、翌年二月、平成二十一年度に交流を実施しよう大筋で合意した。

しかし大連との交流実現には、多くの困難が横たわっていた。二十一年度の団員募集開始直後に新型インフルエンザが発生し、世界的な感染拡大の状況を受け、三週間後にはやむなく募集中止に追い込まれた。

再度の交流を期して実施したのが今回の交流である。募集は四月末の県高等学校長協会総会での説明より始め、五月末に締め切り、選考の上十二校二十名の団員を決定した。

訪中は七月二十九日からの一週間で、今回の交流の目玉は、上海で実現できなかったホームステイの実施である。初めての交流でとまどうこともあ

ったが、大連第一中の全面的な協力と団員の積極的な行動で、素晴らしい交流となった。なお、団員のアンケート調査によると、今回一番印象に残ったこととしてホームステイをあげる生徒が一番多かった。

九月末の大連第一中招聘は、来日時期が中国の国慶節の時期で航空券の手配が難しく更に尖閣問題が発生し、来日は困難を極めた。来日一週間前に最終の日程が決まり、来日後にも報道関係の対応を含め緊張の連続であったが、十一名の訪日団は、岡山朝日高校との交流、ホームステイなど、予定通りの行程をこなすことができた。

このように多くの困難な状況にもかかわらず、夏の訪中と秋の招聘が実現し、次代を担う高校生同士が素晴らしい交流を繰り広げ、相互理解が進み、固い友情の絆を結んでくれたことは本当に嬉しいことである。厳しい情勢の中、交流に暖かいご理解をと、ご支援



大連一中校舎

ご協力をいただいた多くの皆様のお陰である。心よりお礼を申し上げます。交流の様子は後日報告書に纏める予定であるが、ここでは、公募で選ばれた高校生が、初めて訪れる大連の地で、どのような交流をしてきたかを毎日記録したジャーナルと、帰国後の感想文で紹介する。(会長 岡田 浩明)

ジャーナル

六月二十六日

結団式

今日は結団式と第一回研修会でした。結団式では決意表明を任せられても緊張しましたが、決意表明を通し自分の決意を再確認できたので良かったです。

その後のミーティングでは、全体リーダーを務めさせていただくことになりました。リーダーとしての仕事を最後までやり通す事ができるよう、精一杯頑張りたいと思っています。

今回のミーティングの反省点は時間配分と余分な私語が多かったことなどです。今回の反省をもとに、次回のミーティングは、進捗を工夫して中身のあるミーティングにしていきたいと思えます。良かった点は、ほぼ初対面にもかかわらず、メンバー同士がかなり打ち解けていたことです。この良い雰囲気を保ちながら、七月十九日のミーティングを経て、二十九日の出発を迎えたいと思います。

(岡山城東高校三年 川本 栞)

七月十九日 第二回研修会

第一回目の研修ではなかなか沸かなかった実感が、今回の研修でふつふつと沸き起こってくるのを感じました。特に『朋友』を歌う練習では、聞き慣れない言葉を歌っているうちに「自分はいま中国語を歌っているんだなあ」とぼんやり思ったりして、いよいよよんだなどという気持ちです。中国の学生の人たちと、万国共通語とはいえ双方どちらにとっても母国語ではない英語でコミュニケーションを取るといっては不思議な感じがしますが、同時にグローバリゼーションを体感できておもしろくもあります。

また、曾田先生のお話を聞いて、私たちが大連第一中学の人たちにとっての日本人になるのだと考えると、今回STUDENT EXCHANGEには交流あるいは語学研修として以上に大きな意義があるように思えました。私たちが日本人ではなく地球人としての意識を持てるいい機会だと思います。大連での様々な出会いや経験が今から楽しみです。

(岡山朝日高校二年 三吉 世里子)

七月二十九日 大連へ

今日は待ちに待った出発の日でした。八割の楽しみと、二割の不安を抱きながら、飛行機で日本を飛び立ちました。私は飛行機に乗ったことがなかったの、新しい体験ができました。その後、大連市に到着しました。第一印象は「大きい！」です。道路も建物も岡山とは規模が全く違って改めて中国だなと感じました。

じました。

空港からはバスでホテルに移動して、ホテルから夕食を食べにレストランに行きました。今日の夕食は「東北」の料理でした。食べたことも見たこともない料理が多かったけど、どれもとてもおいしかったです。料理が口に合わなかったらどうしようという私の不安はすぐに消えて、安心しました。

夕食後ホテルに戻り、コンビニに行きました。とにかく物価が安いことに驚きました。少し中国を知ることができて嬉しかったです。明日からもっと詳しく、たくさん中国に触れていきたいと思えました。これからがとても楽しみです。

(倉敷青陵高校一年 内藤 晴可)

七月三十日 交流一日目

今日は大連第一中学の方々との交流ができた一日だった。まず歓迎セレモニーでは、中国の伝統の民族音楽や民族舞踊、ダンスを見せてもらった。本当にプロ級ではないかという腕前で、ただ見入ってしまった。僕たちの



歓迎会

発表では、とても緊張してうまく伝えられたかわからないし、不十分な点もあったかもしれないけど、僕たちができることを精一杯やれたと思う。

パートナーとの会話では、うまく言葉が通じず何とか工夫しながらコミュニケーションをとっていた人もいたけど、ところどころ日本語が通じたり、日本の「マンガ」という共通の話題で盛り上がり嬉しかった。言葉の壁をこえて楽しい会話ができて本当に良かった。明日からのホームステイではステイ先の家族の方と色々な話をし、日本ではできないようなことをたくさん経験したい。

(岡山朝日高校一年 長瀬 昂己)



音楽交流

今日は、大連第一中学の訪問がありました。着く前は、楽しみで緊張して、言葉の壁があることでとても不安でした。しかし、中学に到着するなり、向こう側からの熱い歓迎があり、とても楽しむことができました。日本側の出し物で、『朋友』や『世界に一つだけの花』を歌う時、向こうの生徒さん

達も一緒に歌ってくれて、無事に初対面を終えることができました。

その後、ホームステイ先のペアの子と色々な話をしたり、学校案内をしてもらいました。大連第一中の人は、私達と同年代なのに、とても発音がよく、英語での対応が速くて驚きました。自分の英語力が劣っていたせいで、会話が途切れたり、相手に気を遣わせたりにして申し訳なく思ったりもしました。この経験を通し、少しでもいいから自分の英語力がUPするよう残り五日間を過ごしたいと思います。

(倉敷青陵高校一年 三谷 絵美)



ホームステイ先の家族とともに

七月三十一日 交流二日目

今日は英語の授業に参加しました。日本の授業よりもレベルが高い気がして、すごいなと思うと同時にあせりを覚えました。それは単なる英語力の差ではなく、勉強に対する意欲や姿勢の差だと思いました。日本はこれだけいいのかと強く思いました。日本人は英語の読み書きができてもらいスニングとトキニングはできないなと思いました。

授業中、分らないところがあつたら、パートナーのメイシーがゆっくりとより分かりやすいような英語で教えてくれて、すごく助かったしうれしかったです。私とメイシーとの英語力の差もひしひしと感じました。

私達はこれからの国際社会で生きていくためには、今までのようなでできる人に頼る考えを改め、一人一人がもつと真剣に学んでいかなければならないのではないのでしょうか。今回の交流は自分にとってとても刺激になったと思います。帰国したら改めて勉強に必死で取り組もうと思います。

(岡山朝日高校一年 齊藤 万千子)

大連第一中学生との交流は二日目でした。かなり打ち解けた様子で座談会を開くことができ、その前の英語の授業で、みんながとても積極的に発表し、意見を言うことができたことも幸いしたと思っています。



英語模擬授業

学生食堂で昼食をとった後は、ホストファミリーと一緒に過ごす時間になりました。わたしは市内散策というこ

とで、夕食の買い物にご一緒して、家に行つて餃子を作り、それを食べた後は、パートナーである遅夢竹さんのおじさんの運転する車で海を見に行きました。中国の方の運転は豪快かつ滑らかで、窓を開けると勢いよく風が入りこみ、潮の匂いが全身に染みるような気がしました。

遅夢竹さんも、彼女のお母さん、お祖母さん、妹さん、おじさん、おばさん、みなさんが優しい笑顔で接してくださり、緊張もほぐれました。残りの時間も大切にしたいと思います。

(笠岡高校二年 飯田 千尋)

八月一日 交流最終日

今日は、ホームステイ先で迎えた朝でした。昨日までは、パートナーの家に行つて、家族がどんな反応をするか、ちゃんと自分の思ったことが伝わるか不安でいっぱいでした。でも、家族の人は温かく迎えてくれました。言葉はパートナーを通さないと伝わらなかつたけど、皆さんとてもよく気づかってくれて不安が消えました。でも、私はパートナーを伝えたいと伝わりなかつたけど、皆さんとてもよく気づかってくれて不安が消えました。でも、私はパートナーを伝えたいと伝わりなかつたけど、皆さんとてもよく気づか

二日目の朝、パートナーとシヨッピングに出かけて、私の要望を聞いていろいろ連れていってくれて、そのまま学校に戻りました。最後の別れの時、

短期間だったのに、辛かったです。いい経験をしたいと思います。

(倉敷鷺羽高校一年 中野 明日佳)



切り紙交流

午前中はホームステイ先の人たちと一緒に過ごした、公園に行つたりした。中国の人はとても健康志向が高いと聞いた。公園ではたくさんの方が運動しているところを見ることができた。若い人からお年寄まで多くの人がいた。大連第一中学の人と別れるのはとてもさびしかった。一緒にいろんな所に行つたり話したりできて本当によかつたと思う。言葉の壁に最初はとまどつたけど、だんだんと分かり合えるようになってきた。もっと英語を勉強して自分の思っていることや伝えたいことが言えるようになりたい。

旅順では、日露戦争の戦跡を見た。しっかりと話を聞くことができた。ここでどんなことがあつたのかを忘れてはいけないと思う。

(関西高校二年 原田 貴史)

八月二日 北京へ

今日は朝早くに大連を出て北京に移動しました。大連は曇っていて涼しかったですが、北京は晴れていてとても暑かったです。車も人もとても多い街だなあと、バスから景色を見ていました。そして北京の有名な観光地、天安门広場に到着しました。

日本にはない広さの広場にはたくさんの方がいてびっくりしました。天安门を通り抜けて故宮博物院に行きました。しかし、たくさんの方の門があり、博物院の前で足が疲れた人が多かったです。博物院に入つて全体の地図を見ましたが、あまりの大きさにびっくりしました。故宮には九百九十九の部屋があるそうです。建物や昔の結婚式の資料を見てバスに戻りました。

休憩としてお茶屋に行き、たくさんのお茶を試飲して、気に入ったお茶を買いました。夕食後はスーパーに行き、買い物をしました。北京のスーパーはとても大きかったです。中国のお茶、薬、お菓子を買った人が多かつたようです。明日の郊外の見学も楽しみです。

(岡山大安寺高校二年 下瀬 真里子)

八月三日 北京から上海へ

今日は北京二日目。今日も強行軍。まずは万里の長城に行きました。よく写真で見る場所に自分が居ることに感動したりして、不思議な気持ちでした。思つたより短時間で往復できました。が、高所恐怖症の私にとっては、とてもこわかったです。そして昼食を食べ

て、明の十三陵の一つ定陵を見に行きました。明の時代の壁があのようにきれいな状態で残っていたり、扉を開める方法や、地下に壁を作る方法などいろいろなることに感動しました。

今日での研修のプログラムは全て終了しました。普通に生活していたらできないような体験がたくさんできました。文化や言葉の壁はとても厚かったですが、自分の英語が通じたときは、とてもうれしかったです。この貴重な体験を将来の夢や、今後の生活に生かしていきたいです。



超市(スーパー)で買い物

(岡山芳泉高校二年 富田 理加)

八月四日 帰国

今日は帰国の日になりました。この七日間は、あつという間に過ぎて行きました。帰りの飛行機の中で、優しく接してくれたホストファミリーや、長い歴史を持つ中国の建物、そして、めざましい発展をしている現在の中国などを思い浮かべていました。

とくに印象深かったのは、ホームステイでした。何も分からない私を優し



ホームステイ先にて

く迎え入れてくれました。実際に中国の家庭に入って、食文化の違いや、生活習慣の違いを感じました。ホストファミリーの様子を見ると、家族を大切にする気持ちも感じました。

英語模擬授業を体験して、日本の授業とは違い、英語のみで行う授業は私にとっていい体験となりました。日本の授業も中国のような形態を取り入れてほしいと思いました。

岡山に帰国し、解団式では、この経験を将来に生かしてほしいという言葉が心に残りました。この経験を今後の生活に生かしていきたいと思います。

(総社高校二年 丸川 美咲)

感想文

大連で学んだこと

岡山操山高校二年 山口 紗英

長いように思われてあつという間だった一週間で、たくさん活動を体験しました。

たとえば、大連での第一中学の生徒

との交流では、ホームステイなどを通して多くの生徒と出会いました。彼らは、日本語選択と英語選択とに分かれていました。彼らは、私が日本で想像していたものをはるかに上回る日本語力・英語力を持っていました。そして何より、「外国の言葉を使って自分のものになりたい」という意欲にあふれているように思えました。私のパートナーは英語選択者だったので、それぞれの国独特の英語の発音に少し手間取りながらも、会話を楽しむことができました。中国の伝統的な楽器を演奏したり、中国の芸術文化である切り絵を体験したり、第一中学の生徒の作成した作品も受け取ることができました。

これらの第一中学での活動で、私は次のような二つのことに気づきました。一つ目は、日本人学生と中国人学生との意欲の違いです。中国人学生は夏休み中にもかかわらず、この事業のために学校に出てきてくれていました。彼らは英語の授業にも積極的に参加していました。事業参加者以外の人についてはわかりませんが、少なくとも私は中国人学生のやる気に負けてしまったように感じました。

二つ目は、自分の英語の語彙力のなさです。「学校でやった単語テストで見たな。」と思っても意味がわからず会話が成立しないことがあり歯がゆい思いを何度も経験しました。日中の学生はお互いに母国語でない英語で話していたので、話しかけてみたものが笑顔でごまかすことも多々あったのが残念です。

念です。

この交流事業は基本的に団体行動だったために多くの方の協力、支援をいただきました。家族の旅行、学校の修学旅行とも違うことに気をつけなければならぬと大連を発つ五日目の朝にやつと気づくことができました。先生に注意されたある人がそのことに對して不満を言っていたのを見て、「自分にはあんなにしようしよう、反面教師とさせてもらおう。」と感じたことをきっかけに、それからの日程を私なりに気をつけて行動することができました。ガイドさんや添乗員の松岡さんの話を一人一人がきちんと聞こうと思うだけでも、負担は変わってくることや、周りの人の動きを見て自分がどうすればみんながいい気持ちで過ごせるかなど、誰か他の人から言われて気づくのではなく、自分で考えて気づくことができました。

私がこの日中青年交流事業で得た一番の収穫は、「自分から積極的に行動すること」です。同じ活動をしていても、個人の気の持ちようでそれぞれの人に残るものは大きく違ってくる。より多くのことを吸収・理解するには自分の意欲・積極性が欠かせない。人生を分けると言っても過言ではないことに気づくことができました。この交流事業に参加できたことを、とても嬉しく誇りに思います。そして参加させてくれた両親、引率してくださった先生方に感謝したいと思います。



旭川荘厚生専門学院

●旭川キャンパス

児童福祉科
第一看護科 第二看護科
〒703-8560 岡山市北区祇園866
電話(086)275-0145
FAX(086)275-3283

●吉井川キャンパス

介護福祉科 福祉研究科
精神保健福祉科
〒704-8126 岡山市東区西大寺浜610
電話(086)944-6911
FAX(086)944-6922



岡山商科大学孔子学院

21世紀はアジアの時代、中国語を学ぶ絶好のチャンスです。
中国政府認定講師による中国語講座開催中!

☆HSK3級合格を目指す長期生コース
15週学習を通じて、HSK試験(中国語能力認定試験)3級合格を目指します!
※会社や団体への出張講座、キッズ(子供向けコース)も開講中!

●お問い合わせ/お申し込みは

岡山商科大学孔子学院 〒700-8601
岡山市北区津島京町2丁目10-1
TEL 086-252-0642(内線521) FAX 086-255-6947
<http://www.osu.ac.jp>

中国語講座日程(2010年前期)

| クラス | 曜日 |
|-----|-------------|
| 入門Ⅰ | 水曜(昼)・金曜(夜) |
| 入門Ⅱ | 水曜(夜) |
| 初級Ⅰ | 火曜(夜)・木曜(夜) |
| 初級Ⅱ | 金曜(夜) |
| 中級Ⅰ | 水曜(昼)・火曜(夜) |
| 上級Ⅰ | 木曜(夜) |

学校法人 中国学園

中国学園大学

●現代生活学部人間栄養学科 ●子ども学部子ども学科 ●大学院(現代生活学研究科)

中国短期大学

●総合生活学科 ●保育学科 ●英語コミュニケーション学科
●音楽科 ●情報ビジネス学科 ●専攻科

〒701-0197 岡山市北区庭瀬83番地 TEL086-293-1100 FAX086-293-3993
<http://www.cjc.ac.jp/> E-mail t-bosyu@cjc.ac.jp

岡山理科大学附属 中学校 中高一貫コース!



学校法人 加計学園 岡山理科大学附属中学校
〒700-0005 岡山市北区理大町1番1号
TEL.: (086)256-8517 FAX.: (086)256-8518
学校法人 加計学園 中高入試広報室
TEL.: (086)256-8527 FAX.: (086)256-8526
E-mail: kouho@ridaifu.ed.jp



(財)全国高等学校体育連盟協賛 インターハイ協賛 (財)日本中学校体育連盟推薦 (財)日本中学校体育連盟シボルマーク付

kanko ELLE MICHEL KLEIN
 Sprinter Reebok SPALDING

OZAKI

尾崎商事株式会社 岡山営業所 〒701-0206 岡山県岡山市南区山田2316-28
 TEL 086(292)8255 FAX 086(292)8266

尾崎商事株式会社 <http://ozaki.jp/>
 本社 〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町15番1号 岡山リットシティビル5F
 お客様相談室 0120-712983

赤ちゃんからお年寄りまで
 一人ひとりの「よく生きる」のために。



事業領域
 教育・生活・シニア・介護・語学・
 グローバル人材教育

くわしくはホームページをご覧ください。
<http://www.benesse-hd.co.jp/>

株式会社 ベネッセホールディングス
 岡山本社 〒700-0807 岡山県岡山市北区南方3-7-17
 東京本部 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34

Benesseは、ラテン語の「Bene(よく)」と「esse(生きる)」を一語にした造語です。



学校法人 志学学園／眼鏡技術専門学校

ワールド オプティカル カレッジ

メガネに関する「専門知識」と「最新技術」を修得した
 スペシャリスト 眼鏡技術者を育成

第一眼鏡科：高校卒業以上 3年制
 第二眼鏡科：専修学校・短期大学卒業以上 2年制

(学校見学は随時受付けております)

〒703-8282 岡山市中区平井6-6-11 TEL:086-272-5566 FAX:086-272-4422 0120-88-8233
<http://www.woc.ac.jp> E-mail woc@woc.ac.jp

おかげさまで21周年!

アジア・コミュニケーションズはあなたのツアーデスク!

- 岡山発着航空機の手配いたします!
 中国東方航空で上海・大連・北京へ!
 大韓航空で韓国ソウルへ、仁川空港経由で中国各地へ!
- お得なパッケージツアー (上海・大連・青島・など)
- 特徴あるこだわりのツアー
 シルクロード、チベット、雲南、内モンなど
 皆様のご要望に沿った旅行企画をいたします。
 安心の添乗員同行ツアーです
- 日中教育交流のサポート
 企画から旅行実施、添乗までサポートします。

○お気軽にお問合せ下さい



株式会社アジア・コミュニケーションズ
 ASIA.COM 観光庁長官登録旅行業第1816号 ©JATA正会員 IATA公認
 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル4F(〒700-0902)
 TEL (086) 231-0334 FAX (086) 225-5041
<http://www.asicom.co.jp> Eメール info@asicom.co.jp



岡山県日中教育交流協議会

岡山県日中教育交流協議会 会報 『悠久』 第33号

発行：平成22年11月

発行者：岡山県日中教育交流協議会 編集委員会

〒700-0902 岡山市北区錦町5-15 南田辺ビル2階

TEL (086) 225-5083 FAX (086) 225-5041

印刷所：旭総合印刷株式会社